

第25回 岡山医療フォーラム

【法医学と救急医学】

2026.3.7（土） 14:00～16:00

公益財団法人岡山医学振興会

代表理事 山田雅夫

当財団は、2001年に岡山大学医学部内に設立され、その後、法律の改正により、2011年に公益財団法人となりました。当財団の活動の一環として、毎年一般市民の方に向けて市民公開講座を開催しています。

その他の財団の活動として、岡山県下の医療に関する教育、研究、学会、研究会、医療関係の方の海外派遣、海外からの招請、地域連携活動などを支援致しております。そして、これらの活動は、岡山大学医学部関係者から毎年いただくご寄附で行っています。

今後とも、市民の皆様にもご支援ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

法医学者のもやま話

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 法医学分野 宮石 智

法医学とはどのような医学でしょうか。殺人事件被害者の解剖を専ら行う犯罪医学、そんな風に考えている方も多いのではないかと思います。

私は、しばしば法医学をスマートフォンに例えています。法医学における解剖を通しての社会の安心、安全への貢献は、スマートフォンにおける画面表示のようなものです。画面表示ができなければ、スマートフォンは用を為しません。同じように、解剖を通して社会の安心、安全への貢献ができなければ法医学はもはや法医学ではありません。しかし、画面が表示されていればスマートフォンでしょうか？ 店舗展示のスマートフォンの画面は表示されていますが、何の機能もない張りぼてです。解剖を通しての社会の安心、安全への貢献だけに終始する法医学も、いわば張りぼての法医学です。

フォーラムでは、画面に現れている法医学の歴史と、画面に現れていない法医学の一端を紹介したいと思います。

meno

救急現場における人生会議（ACP）の大切さ一命の終え方を考える一

岡山大学病院高度救命救急センター 中尾篤典

救命救急センターには多くの患者さんが搬送されますが、中には不幸にも救命できない患者さんがおられます。ほとんどの患者さんは自分の身にまさかこんなことが起こるとは予想していなかつたでしょう。ですが、誰にも平等に必ずいつかは死が訪れます。私は、日常的に多くの死に相対する中で、「最高に格好いい最期」を演出してあげなければいけないと思うようになりました。

患者が前もって、高度な集中治療や延命処置はせずに、自然な看取りを希望していても、家族はしばしば無益な延命処置を希望されます。安らかな最期を台無しにするような心臓マッサージが延々と行われる場面に遭遇しながら、私は心を痛めてきました。ACP（人生会議）は、自分にもしものことがあった時に備えて、大切にしたいことや、どんな医療やケアをうけたいかを元気なうちから考え、家族など信頼できる人たちと話し合っておくことです。いかにして死を迎えるか、正解がない永遠の課題です。誰にも必ず訪れる「死」の向き合い方と一緒に考えましょう。

meno